

「発達障害」分科会 令和2（2020）年度活動報告

（1）会の代表者・連絡担当者等の確認 「発達障害」分科会

会長 吉井勘人

副会長 長澤真史

会計 板倉達哉

監事 兵藤瑞穂

（2）令和2年度の活動報告書

①総会 日時：2020年7月3日メール協議

方法：メール会議（新型コロナウイルス感染症対策として）

議題：2020年度活動報告・決算報告および2021年度活動方針

②例会

日時：2020年11月14日（土） 14時00分～16時30分

方法：Zoom ミーティング

参加者：38名

■テーマ 「コンサルテーションを対話による変容の視点から再考する」

近年、教師や保育者など現場で子どもたちと関わる人たちへの支援を行うことにより、子どもにとってより適切な交流を生じさせる環境として、教育現場や保育現場に対する外部の専門家による支援が一般的になってきている。こうした外部の専門家による支援は、保育所等訪問支援や巡回相談、コンサルテーションといったものがあり、実施方法など様々である。また、外部の専門家についても、特別支援教育に関わる教員から、心理職、言語聴覚士、作業療法士、理学療法士など多様な専門家が担うようになってきている。こうした支援に関する研究もこの10年程の間に少しずつ増加している。一方で、様々な専門的立場があることにより、支援の方法等に関しても多岐にわたっているものの、その方法に関して共通する事項や課題があると考えられる。

これまで発達障害の支援に関して検討してきた本分科会では、発達障害の理解と支援について様々な議論を行ってきた。子どもをアセスメントし支援するという過程の中で、子どもの学習やその子の姿をどのように捉えていくかについて検討してきた。ここ数年では、実際に子どもたちと関わる教員や保育者等の支援者側の変容についても併せて検討してきた。子どもの評価、支援、支援を通じた支援者の変容という過程は、今後さらに重要になってくると考える。

そこで、本会では、教育現場や保育現場に外部の専門家が訪問するようなコンサル

テーション等の過去の研究を概観しながら、実際にコンサルテーション等の事例から外部専門家としてのあり方、現場との対話を通した子どもの理解について再考したいと考える。

■スケジュール

1. 企画趣旨：板倉達哉氏（文京学院大学心理臨床・福祉センター）
『コンサルテーションの歴史と展望』
2. 話題提供：若井広太郎氏（筑波大学附属大塚特別支援学校）・兵藤瑞穂氏（筑波大学大学院）
『幼稚園でのコンサルテーション』
3. 話題提供：吉井勘人氏（山梨大学）
『特別支援学校でのコンサルテーション』
4. 指定討論：柄田毅氏（文京学院大学）長澤真史（関東学院大学）
5. 全体討論
6. まとめ

③学会活動

(1)日本発達心理学会第32回大会ラウンドテーブル

「発達障害」分科会企画

日時：2021年3月29日（月） 16:00～18:00 Web開催（関西学院大学）

タイトル：「外部専門家による支援の再考：発達の視点に基づくコンサルテーション」

司会者：板倉 達哉(文京学院大学)

話題提供者：若井広太郎（筑波大学附属大塚特別支援学校）

吉井勘人（山梨大学大学院）

長澤真史（関東学院大学）

指定討論者：柄田毅（文教学院大学）

長崎勤（実践女子大学）

(3) 令和3年度の活動計画 有

①総会の開催 メール会議 期間：4月16日～23日

②例会の開催 オンライン型の学習会

テーマ：コンサルテーションにおける発達論的アプローチの追求

Zoomなどを利用して、講演会または論文や書籍の輪読を行う。

③ニュースレターの発行